

2026 132

CAT[®] CLUB



COVER MODEL: **Compact Track Loader 265**

CUSTOMER REPORTS 株式会社池田開発
油圧ショベルの自由度が飛躍的に進化

自在に、腕の見せ所。

CAT[®]

中国



山と河を越えて希望を築く、黄土高原のエネルギー転換 ガスが灯す、新しい未来

世界最大規模の単一ガス発電所が稼働する中国・山西省南東部。

キャタピラーの技術に支えられた当地のガス発電は、時代の流れとともに新たな形へ進化を遂げてきた。

壮大な太行山脈に抱かれ、黄河の流れを望む街——晋城。険しくも恵まれたこの土地では、世代を超えて挑戦と希望が受け継がれてきた。豊富な石炭資源を有するこの地域では、勤勉で献身的な人々が、緑豊かな故郷を守るためのエネルギー革命を推し進めている。

主要なエネルギー産地である山西省は、2024年、中国全土の原煤(採掘したままの未処理の石炭)の4分の1以上を産出した。また山西省は中国で有数の炭層メタンの埋蔵量を誇り、その多くは南東部の秦水炭田に集中している。しかし、採炭作業には常に危険が伴い、とりわけガスは長年にわたり炭鉱で働く人々に恐れられてきた。「昔は、ガスと言えば“危険”そのものでした」とベテラン技術者は静かに語る。

かつて、晋城市では、炭鉱から発生するメ

タンガスはそのまま燃焼処理され、大量の温室効果ガスや大気汚染物質が放出されていた。それは環境にとっても、地域社会にとっても最善とは言えない方法であった。

「危険」から「資源」へ 2006年の大きな一歩

2006年、山西金驹煤电化有限責任公司(以下「金驹」)は大きな決断を下した。世界最大規模の単一ガス発電所となる、沁水寺河120MWガス発電所の建設である。このプロジェクトは、ガスを“危険物”から“エネルギー”へと転換する画期的な成果をもたらした。ガス事故のリスクを大幅に低減しただけでなく、環境汚染の抑制にもつながり、地域経済にも大きな恩恵を与えた。

建設工事が始まった当時、周囲に広がっ

ていたのは険しい丘陵ばかり。作業員たちは近くの村の空き家を借り、過酷な環境の中で工事をスタートさせたが、その努力は次第に確かな形になっていく。発電所にはCat® G3520C炭鉱メタン発電機セットを合計60台導入。ガスを“危険物”から“エネルギー”へと変える仕組みが構築された。

試運転が始まったのは2007年末、金驹のエンジニアリングチーム、利星行機械(Lei Shing Hong Machinery)北方のサービスチーム、そしてキャタピラーの専門家たちが昼夜を問わずこのプロジェクトを支えた。

そして2008年3月28日、最初の発電機セットが送電網への同期に成功。同年10月1日、沁水寺河ガス発電所は正式に商業運転を開始した。現在では年間8億4,000万kWh以上の電力を生み出し、約360万トン

のCO₂換算排出量の削減に貢献。回収されたガスは電気と熱に変換され、晋城市の数千世帯へと供給されている。

10万時間を超える稼働 その先にある選択

長年にわたり安定稼働を続けてきた発電機セットは、やがて大規模なオーバーホールの時期を迎えた。金駒と利星行機械のサービスチームは、設備の状態や運転実績、将来的な運用計画を踏まえ、徹底的に検討を重ねた結果、Cat® Remanショートブロック・オーバーホールソリューションの採用を決定。この選択は、ダウンタイムを最小限に抑えながら、長期的な持続可能性との両立を実現した。

新たな章へ—— 「スマートガス発電」の時代

現在、金駒はさらに未来へと歩みを進めている。「低濃度ガス発電」時代の到来とともに、山西省晋城市は新たな変革期を迎えた。中国で初めて、完全統合型のスマートプラットフォームを備えたガス発電所として、芦家峪スマートガス発電所が誕生したのである。



1.2. 沁水寺河ガス発電所はCat G3520C炭鉱メタン発電機セット60台を導入し、ガスを電気や熱エネルギーに変換し供給している
3.4. 芦家峪スマート発電所は中国で初めてスマートプラットフォームを備え、全ての運転データを3次元で可視化できる発電所

16基のCat G3516C低濃度炭鉱メタンガス発電機セットが設置され、すべての運転データが3Dで可視化されているこの発電所は、年間最大1億4,000万kWhの発電能力を有する。「スマートガス発電」の新時代が、ここから始まった。

変わりゆく街、 変わらない想い

今日の晋城市は、かつての炭鉱都市とはまるで異なる風景を見せている。

2021年には、国連国際高齢者研究所(INIA)より「世界健康・ウェルネスデモンストラーションシティ」に選ばれた。黄土高原のクリーンエネルギー、山西省の緑豊かな山々と澄んだ水。それらは、かつて人々を導

き、地域の象徴とされる伝説の騎馬英雄・晋樹をはじめ、何世代にもわたり現場で力を尽くしてきた人々の努力の結晶だ。

その背景には、“ふるさとをより良くしたい”という深い愛情と、“努力は夢を叶える”という揺るぎない信念がある。そして今も、現場に立つ人々の想いととも、晋城のエネルギー革命の物語は続いている。

キャタピラーは50年にわたり、中国でのニーズに特化したマシン・設備の開発・製造と、豊富な付加価値サービスを展開してきた。この先も事業を通じてより良い世界を築いていく。

キャタピラーが紹介する
カスタマーストーリーはこちら。



晋城市は2021年に「世界健康・ウェルネスデモンストラーションシティ」に選ばれた



油圧ショベルの自由度が飛躍的に進化 自在に、腕の見せ所。

九州一円で情報インフラ整備工事を手掛ける池田開発様が現場の切り札として導入したのは、チルトローテータ対応の油圧ショベル。その柔軟で繊細な動きが、大きな効率化をもたらしています。



斜面で作業を行う305.5 CR。



グラブを伸ばして木の枝をつかむなど、従来は人の手で選別していた作業も、付帯作業員無しで可能に。

情報インフラ整備工事の技術を持つ数少ない企業 狭いスペースでの緻密な作業をこなすために

50年以上にわたり人口が増加し、海上には長崎空港を擁する長崎県大村市。2022年の西九州新幹線開業に伴い、新大村駅と大村車両基地が整備され、交通の要衝としての存在感を高めています。

大村車両基地をきっかけに事業を拡大してきたのが、池田開発様です。造成開始から約7年にわたって工事に携わり、社員も設備も増強。岩石破碎作業では自走式クラッシャーMC230、盛土作業で油圧ショベル336E LHやブルドーザD6Nなど、盛土補強土壁施工で314E SRや050SRなど、キャタピラーの建設機械が現場を支えました。

近年は幅広い事業展開を進める池田開発様において、他社にない強みを発揮する中核事業が、創業以来の歴史を持つ情報通信基盤工事です。光ファイバーケーブルを取めた情報BOXを道路に埋設する工事を皮切りに、情報インフラ工事の技術を30年近く磨き続けてきました。

創業者である会長の池田利勝様は自らオペレーターとして最前線に立ち、建設機械を動かしてきました。アイデアを駆使して現場でも工夫を重ね、情報インフラ施工に適した工具やアタッチメントなどを自社で開発。実績を重ねて、九州で数社しかない通信建設業の施工技術認定会社として認められています。

現在、利勝様は社長職を田原宏則様に譲られ、現場の陣頭指揮は長男で専務の池田宗一郎様が執っています。宗一郎様は「近年は大きな災害が続き、電柱が倒れて幹線道路が通行止めになったケースもあります。国が情報インフラ整備の計画を打ち出したこともあり、全国的に工事が増えています」と話し、今後も通信インフラの需要は高まると見込んでいます。

「たとえば設備を取り替える際に、ケーブルごと切断してしまうと、その地域だけではなく離れた県の通信まで止めてしまうことになります。ケーブルを生かしたまま周りのパイプを切断し、再び組み立てて元に戻すなどの工事が要求されますが、これはどの会社でもできる技術ではないと自負しています」

情報通信の工事は都市部が中心で、限られた狭いスペースでの作業が求められます。時間帯も夜間が多く、地域との距離が近いので、作業員の会話程度でクレームにつながるリスクも。宗一郎様はキャタピラーの機械を使う理由について「今のマシンは特に音が小さく、限られた作業空間でも必要とされるパワーを発揮でき、トータルで機能が備わっています」と評価されています。

足場が限られ、緻密な作業を必要とする情報通信基盤工事において、いかに効率的に工事を進めていくか。その課題を解決するために池田開発様が導入した切り札が、バケットの回転が可能なチルトローテータ仕様様の油圧ショベルです。



道路拡幅のため斜面を削る315。



(左)左右40度のチルトと360度の旋回が可能なクイックカブラ
(右)チルトローテータを装着した308E2 CR

積極的に導入したチルトローテータが 人力作業を減らし、省人化や工期短縮に貢献

池田開発様が導入したチルトローテータは、情報インフラ関連だけでなく一般の土木工事でも活躍しています。大村市の南に隣接する諫早市で行われていた県道の改良工事では、計4台の油圧ショベルが作業に従事。そのうち305.5 CR、308E2 CR、315の3台にチルトローテータが装着されていました。

工事は、斜面に沿って走る1車線の道路を2車線に拡幅する内容。主に斜面を削って拡幅する現場と、盛土をして拡幅する現場に分かれていて、それぞれの区画でショベルが稼働していました。

道路の脇で斜面に横付けをしていたのが315。斜面の土を少しずつ削っていました。ブームやアームの動作だけでなく、バケットも傾けることによって繊細な作業が可能になります。車両を動かさずにバケット自体の角度を斜面に合わせることで、車両の旋回や移動を最小限に抑えることで、道路の片側通行車両を活かしたまま施工できます。

削られた土はダンプカーに載せ、数十m離れた盛土の現場近くに運ばれます。ここで専務の宗一郎様に、305.5 CRで土をふるいにかけるデモンストレーションを見せていただきました。チルトローテータの扱いの巧みさにおいて、宗一郎様は全国でもトップクラスの腕前だとキャタピラー九州の関係者も評しています。

積み下ろされた土砂から岩や木の枝をバケットに載せ、より分けていく作業。振動させて土をふるい落とす操作はボタンで可能ですが、バケットを縦横無尽に動かしたり、爪のようなグラブを伸ばして長い枝をつかんだりする動作は、手元のジョイスティックに委ねられます。宗一郎様は迷いのない、素早い動作で効率的な選別作業を見せてくださいました。

さらに、チルトローテータの真骨頂が、狭い足場で行う排土や整形などの作業です。道路の高さに向けて少しずつ盛土をしている現場は、305.5 CRがやっと入れる狭さ。斜面が多く、水平な足場は足元のごくわずかな範囲だけです。宗一郎様は車両の向きが斜めの状態から、バケットを回転させて土を垂直に切り出し、残った土もきれいにすくっていました。従来なら足場を広くするための整地作業や、作業するたびに車両を移動させる必要がありましたが、チルトローテータの導入により、付随する工程が大幅に効率化されたことになります。

「たとえば、わずかなすき間を機械できれいに埋めるのは難しいため、今までは人力作業が必要だったのが、バケットの角度を調整して作業できるので機械だけで完結する。現場の条件が厳しくなるほど、チルトローテータは威力を発揮します。条件によっては、0.45m³用と0.2m³用の2台のショベルで3日かかっていた作業が、0.45m³用のチルトローテータ対応機であれば1日で終わられる場合もあります」

宗一郎様が話すように、チルトローテータを使う最大のメリットは、省人化と作業時間の短縮に伴う高効率化。必要な機械を次々と他の現場へ送り出すことができます。

器用な手先を駆使して 確実に任務を遂行する



斜面で作業を行う305.5 CR。バケットを自在に動かせるため、何度も足場を整地する手間が減りました。



「キャタピラーには何でも相談できる」と田原宏則社長。



数多くのマシンの操作を経験されている池田宗一郎専務。



株式会社池田開発

代表者：代表取締役 社長 田原 宏則
 本社所在地：長崎県大村市上諏訪町1499-1
 設立：1997年
 従業員数：40名
 事業内容：土木工事業、情報通信基盤工事、
 残土処分業、産業廃棄物処分業、
 運送業など

<https://ikedahome.webnode.jp/>

オペレータ中心の業務スタイルで お客様のニーズにも柔軟に対応したい

池田開発様とキャタピラーとの縁は20年以上前、中古の油圧ショベル313を導入した時期にさかのぼります。初めて購入されたキャタピラーのマシンが、福岡の通信土木工事の現場で動かなくなった際に、キャタピラー九州のメカニックが夜間にもかかわらず現場に直行して対応。その心意気に現会長の利勝様が深く感銘を受けて、新しく買う建設機械のほとんどがキャタピラーになり、現在はグループ会社を含めて計77台のCatマシンを保有されています。

現場主義を貫く池田開発様は建設機械へのこだわりが強く、キャタピラーを選ぶ最も大きな理由は「オペレータの疲労度が少ないこと」。チルトローテータの導入をいち早く決断したのも、製品の動画を見て、人力作業での疲労を大幅に減らせると感じたのが理由です。

田原社長は「Catマシンはパワーや燃費の面で優れ、オペレータからの評判も上々です。岩掘削や市街地などの課題が大きい現場になればなるほど、最高のパフォーマンスを見せてくれます」と評価されていました。

池田開発様ではICT建機も2022年から導入しており、チルトローテータとの組み合わせによって、複雑な形状の施工もほとんど機械に任せて上げられるようになりました。ただし、最終的にきれいに仕上げる

のには個人の腕も大事だと認識しており、池田開発様ではマシンコントロールに頼るオペレータは一人もいないそうです。

「仕事は基本的にオペレータが中心で、現場の職長も実際に土を触るオペレータが務めるべき」その考え方に共感し、腕のあるオペレータが池田開発様に集まってきました。あるベテランはキャタピラーの機械がたくさん稼働している現場を見て、また別のオペレータは散歩中に3D仕様の336F XEを偶然見かけて、「キャタピラーに乗りたい」という理由で入社したそうです。

人との縁もつないだキャタピラーに対し、宗一郎様は「次はどんなすごい機械を持ってきてくれるかと、いつもワクワクしています。新しいテクノロジーが増えてサービスマンの方も大変だと思いますが、未知のトラブルにも柔軟に対応できる体制を今後も期待しています」とエールを送ります。

2017年に残土処分場、2023年には産業廃棄物処分場を開設。その背景について「お客様にとって残土が課題だったり、産廃を受け入れてもらえなかったりするケースがあり、当社が協力ができれば柔軟に対応したいと考えています。お客様の「かゆいところに手が届く」ような、存在でありたいです」と宗一郎様は説明されます。

「かゆいところに手が届く」という池田開発様のスタンスは、まさにチルトローテータの使用感と同じ。キャタピラーもお客様のニーズを見極め、細やかな気配りの利いた製品やサービスを提供していきたいと考えています。

Ikeda Kaihatsu × Cat Product Cat 305.5 CR

反応の良さとバケットの柔軟な動作で、操作のストレスを軽減



池田宗一郎 様

「オペレータの思い通りに動かして
かゆいところに手が届くような感じ。
人の作業が大幅に減ったことで、
現場全体で歓迎されています」

狭い現場ではもちろん、大きな掘削が終わった後の側溝などの整備にも役立っているのが、チルトローテータ仕様のミニ油圧ショベル。宗一郎様は「以前使っていた同じタイプと比べて、最新の305.5 CRは力強さと燃費性能も上がっていますが、思ったように動いてくれるクイックさが気に入っています」と評価されています。

チルトローテータの柔軟な動きは、マシンの操作で今まで感じたストレスを大きく軽減しました。「オペレータの思い通りに掘ったり形を整えたりできるので、作業をしていて非常に楽しく感じます」と宗一郎様。若手のオペレータも2、3日で操作に慣れ、一度乗ると手放したがりないそうです。チルトローテータの細かい動かし方やコツを見つけては、オペレータ同士で教え合うなど、会社全体で技術の研鑽も進んでいます。宗一郎様は「お客様からも『対応機で来てほしい』という要望をいただきます」と、今後も導入を増やす予定です。

Cat純正チルトローテータ TRSシリーズ 正確な掘削を迅速・簡単・安全に実現



左右40度のチルトと360度の回転動作によって、車両を移動させずにバケットを施工面に正対させることが可能となり、作業できる範囲が大幅に広がります。Cat純正ワークツールとして、追加のコンピュータやコントローラを装着することなく、車載標準モニターで各種情報の確認や設定を行え、また角度を記憶しボタン一つで再現するホームポジションやゼロポジション機能など、複雑な動きを思い通りに制御することが可能です。

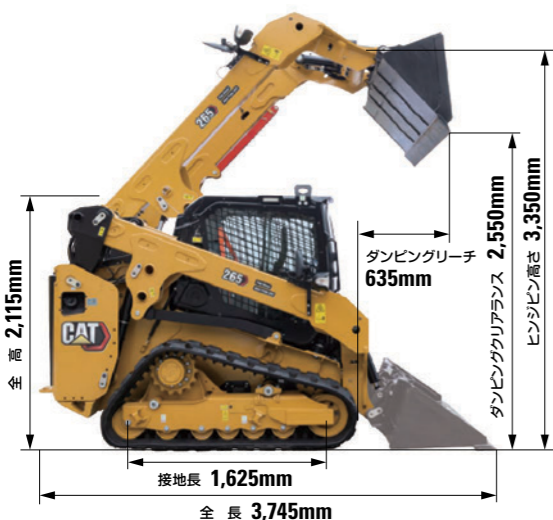
優れた作業性能と卓越したパワーを発揮する 次世代コンパクトトラックローダCat® 265



		265 キャブ
運転質量	(kg)	4,930
バケット容量	(m³)	0.48
エンジン定格出力	(kW)	54.4
常用荷重	(kg)	1,205
最大掘起力	(kg)	3,935
接地圧	(kPa)	29.8

優れた作業性能を発揮する車格と作業範囲

高さ制限のある現場にも入って行ける低車高と、2.5mを超えるダンプクリアランスを確保した広い作業範囲により、優れた作業性能を発揮します。その場旋回可能で狭い現場でも効率よく作業できます。



優れた走行性能を発揮する下部走行体

450mm幅のラバーベルトトラックを装着し、29.8kPaの低接地圧により軟弱地で高い走破性を発揮します。左右独立してトラックローラフレームをつなぐトーションサスペンションを前後に設け、不整地での振動や衝撃を吸収し、優れた走行性能と快適な乗り心地を実現します。

接地圧
29.8kPa 30%DOWN*

機体質量3t未満^{※1}のコンパクトな車体で公道走行^{※2}可能な249D3もラインナップしています。

※1「小型車両系建設機械運転技能特別教育」修了にて運転可能。仕様やオプションにより、機体質量が3tを超える場合があります。

※2 小型(大型)特殊自動車の登録、ナンバープレートの取得、免許が必要。

高効率エンジンが卓越したパワーを発揮

オフロード法2014年基準値に適合する環境性能を備えたCat C2.8TAディーゼルエンジンを搭載しています。ターボチャージャー付きの高効率エンジンは、従来機259D3から排気量を小さくしながらも、最大トルクを大幅にアップさせ、優れた作業性能を発揮します。また、国土交通省低騒音型建設機械の基準をクリアする静粛性を備えています。

定格出力 **54.4kW** 最大トルク **380N・m 40%UP***



特定特殊自動車
排出ガス2014年
基準適合車



国土交通省
低騒音型
建設機械

■ 掘削力、持上能力を大幅アップ

従来機259D3からの車格アップに加え、チルトシリンダ、リフトシリンダのポア径を大きくし、最大掘起力、常用荷重を大幅にアップ。バケットによる掘削、積込み、ワークツール作業で優れた作業効率を発揮します。

最大掘起力 **3,935kg 74%UP*** 常用荷重 **1,205kg 40%UP***

※従来機 259D3比

お客様にとことん真っすぐ。
現場に元気がやって来る。

服部

キャタピラー九州
熊本支店 営業課
マシンセールス



Machine Sales Rep. / Genki Hattori

元気

学生時代は柔道に打ち込み、のちの金メダリストと互角に渡り合った服部元気。ケガにより競技の第一線から退いたものの、『営業で一番になる』ことを目指して建設機械の世界に飛び込んだ。努力を積み重ね、九州でセールスの「三冠王」を達成。それでも初心を忘れることなく今日も早朝からお客様の元へ通い続ける。

2016年に熊本地震が起こった時は、福岡の本社での新入社員研修の真っ最中。熊本に赴任する直前で実家でも激しい揺れを感じました。通行止めの道を避けて熊本支店にたどり着くと、すぐに先輩エンジニアのサポートを任せられました。土砂崩れで沈んだ機械を引き揚げる現場にも出向き、工具を清掃して先輩に手渡す仕事を必死にこなしました。ここ十数年の熊本は自然災害が多く、真冬の川に入って作業もしました。一刻も早く復旧を急ぐ現場での経験は、貴重な糧となりました。

念願のマシンセールスになって心掛けているのは、時間厳守とお客様の目を見て話すこと。何よりも大切にしているのは、わからないことはわからないと伝え、お客様に曖昧な返答をしないことです。

必要であれば上司の力を借りることも大事ですし、各県にいる同世代のライバルたちとも情報を共有します。まさに「チーム・キャタ

ピラー”ですね。鍛えていただいた先輩方のように、広い視野を持った人間になって、お客様や会社を支えていきたいと思っています。

根気強く通い続けたお客様の現場では、放置されていた他社の油圧ショベルを見つけ、その修理対応したのをきっかけに、全てをキャタピラー製品に替えさせていただきました。製品を通じて燃費や生産性の向上で貢献し、現場を止めないようにすることが私たちの使命です。

現在の自分の土台になっているのが、幼い頃から続けてきた空手や柔道です。厳しくて嫌になることもありましたが、目上の人への敬意や諦めない心を学びました。今では、頼まれて地域の大会に出たり、審判を務めたりしながら、自分ではなく人のために道着を着ています。

私生活では2人目の子どもが2月に生まれたばかりで、早く帰って夕食の支度やお風呂を手伝うよう心がけています。しばらくは大好きなお酒を控えつつ、「家族みんな元気なことが一番」キャタピラー九州の「服部元気」という名前をぜひ覚えてください!



服部 元気 (はっとり げんき)福岡県出身。2016年入社。熊本支店でメカニックを約1年、部品サービスセールスを約6年経験し、現職へ。2025年に九州地区で開催したセールスコンテストの3部門で優勝を果たした。

コンパクトトラック
ローダの
詳細はこちら



キャタピラー
コンストラクションジャパンの
Facebookページはこちら!



Cat® Credits

— サービス開始のお知らせ —

Catクレジットはキャタピラーファイナンスが提供するCat製品・サービスの購入にご利用いただけるデジタルクレジットです。お近くの販売店でご利用いただけ※、購入時の割引や、さまざまなお支払いに充てることができます。ぜひ、お得にご利用いただけるCatクレジットをご利用ください。

※新車・中古車の購入にはご利用いただけません。



貯める

キャタピラーおよび販売店が実施する各種キャンペーンに参加することで、Catクレジットを獲得し、貯めることができます。

使う

貯めたCatクレジットは、キャタピラー正規販売店でご利用いただけます。

得する

Catクレジットは、部品・サービス・レンタル・定期メンテナンス契約などさまざまなお支払いにお得にご利用できます。

簡単

Catクレジットの獲得はメールでお知らせ。面倒な手続きは不要で、すぐに利用を開始できます。また、有効期限前には、使い忘れ防止のお知らせ機能もあります。

獲得方法

キャタピラーや販売店のプロモーションにおいて、特別キャンペーンに参加するとCatクレジットが付与されます。Catクレジットは、MyCatFinancialよりアカウント登録することでご覧になれます。

MyCatFinancialは
こちらから



有効期限

Catクレジットには有効期限があり、クレジットを発行するキャンペーンにより異なります。

Catクレジットの詳細については、
担当のセールスマンや、キャタピラーファイナンスまでお問い合わせください。

キャタピラー・ファイナンス株式会社

所在地：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1 OCEAN GATE MINATO MIRAI 12階
TEL：045-682-3701(営業部直通) FAX：045-682-3795

Good Support
Good Work !!



林業の最前線で活躍する 312Eリビルドという選択

今回リビルドを実施したのは、株式会社夕和木材様が林業用途で長年使用してきた312E林業仕様機。過酷な林業現場での使用環境を見据え、信頼性・耐久性に直結する主要部分にフォーカスし、リビルドを実施しました。

BEFORE



AFTER



主な交換・整備部品

エンジン、ポンプ、旋回モータ、減速機、ファイナルドライブ、シート、油圧ホース(※パイロット系を除く)、油圧シリンダオーバーホール、足回り一式交換、作業機ピン&ブッシュ交換

駆動系・油圧系・足回りまでを含めた総合的なリビルドを行うことで、1万時間以上稼働してきた312Eは、再び主力機として現場投入できる状態へと生まれ変わりました。

お客様の声 Testimonials

株式会社 夕和木材

代表取締役 黒木 和也様
専務取締役 黒木 直哉様



今回リビルドを実施された、代表取締役の黒木和也様(右)と専務取締役の黒木直哉様(左)。

会社設立時に導入した最初の一台がこの312Eで、導入以来ずっと私(黒木和也様)がオペレータを務めてきました。林業という過酷な現場をともに乗り越えてきた機械ですので、非常に強い愛着があります。

新車への買い替えではなくリビルドを選択した最大の理由は、その愛着はもちろん、林業仕様として徹底的にカスタマイズしていた点にあります。ガード類の取り付けや細かな加工を随所に施しており、新車で一から同等の仕様を再現するとなると、機械代以上に多大な手間とコストを要するからです。

当初のリビルド計画ではエンジンとポンプのみを想定していましたが、“どうせやるなら予算をかけてでも全体を完璧に仕上げよう”と方針を転換しました。

その結果、仕上がりは想像以上でした。展示会などでリビルド機を目にする機会はありましたが、いざ自分の愛機が見違えるほど綺

麗になった姿を目の当たりにすると、やはり驚きを隠せません。

これまでハードな現場をこなす中で、急勾配を登る際などに“もう一踏ん張りパワーが欲しい”と感じる場面もありました。今回は足回りに加え、エンジンやポンプも刷新しています。本格的な稼働はこれからですが、どのような変化を見せてくれるのか非常に楽しみです。

新車導入を検討している同業者の方々にも、「リビルド」という選択肢をぜひ勧めたいですね。現在の排ガス規制に対応した機械は尿素(DEF)の管理が不可欠で、万が一管理を誤れば山の中で立ち往生するリスクもあります。使い慣れた機械を活かし、再び主力機として蘇らせるリビルドには、十分な価値があると感じています。

1万時間を超えて働いてくれたこの機械の「第二の人生」がいよいよ始まります。これからも、頼れる相棒として大切に使い続けていきたいです。

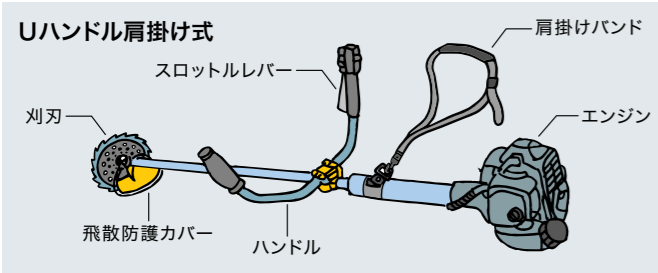


刈払機に必要な資格について



気温が上がり雨量も増すこの時期は、夏草が急速に成長するため、刈払機の使用が増える季節です。農業機械作業中の負傷事故のうち、特に多いのが刈払機による事故であり、現場では安全な草刈り作業が重要になります。ここでは、この時期の環境整備に欠かせない刈払機の使用に必要な資格についてご紹介します。

刈 払機は、エンジンやモーターの動力で高速回転する刃を使い、雑草や下草を効率よく刈り取る機械です。造園、農業、林業だけでなく、建設現場の環境整備など幅広く活用されています。タイプとしては肩掛け式と背負い式が主流で、住宅地では静音な「充電式（電動）」、より広い作業エリアではハイパワーな「エンジン式」が適しています。いずれも作業効率の向上には効果的ですが、キックバック（刃の跳ね返り）や飛散物による危険があるため、取り扱いには十分な注意が必要です。



安全で効率的な作業環境を維持するための、敷地内の草刈りや環境整備に使用する刈払機は視界確保や安全性の向上など、多岐にわたる役割を担っています。適切な草刈りは、視界不足や転倒事故などのリスク軽減にも直結します。

■ 建設現場での活用場面

- ・敷地内の草刈り、環境整備
- ・視界確保（道路沿いや工事看板周辺）
- ・法面、斜面の草刈り（転倒・滑落事故の防止）
- ・仮設ヤードや資材置き場の安全確保
- ・害虫・害獣対策としての草丈管理

作業中は鋭利な刈刃が高速で回転しているため、誤った使い方をすると、安全対策を怠ると、取り返しのつかない事態を招くおそれがあります。刈払機作業に伴う主なリスクとその対策としてのポイントは以下のとおりです。

■ リスク

- ・キックバックによる負傷
- ・刃や飛散物による事故
- ・斜面作業での転倒リスク

■ 主な対策

- ・防護具の適切な着用
- ・作業半径5mの立入禁止の徹底
- ・刃の点検と定期交換

労働安全衛生法では、刈払機を使用する際の資格として「事業者は労働者に刈払機を使用させる場合、刈払機取り扱い作業に対する安全衛生教育を受講させること」と定められています。現場で重大な災害を引き起こさないためにも正しい操作知識と適切な教育を受けた作業者が作業にあたることが不可欠です。



現場の安全向上に向けて、ぜひ受講をご検討ください。

キャタピラー教習所では、刈払機の正しい作業方法やメンテナンスを理解していただくため、「刈払機取り扱い作業安全衛生教育」を定期的実施しています。

技能講習・安全教育のご用命はこちらまで
キャタピラー教習所株式会社

本社：〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮7-11-1
TEL 0467-73-1221 FAX 0467-73-1211
ホームページアドレス <http://cot.jpncat.com>

詳細は

🔍 [キャタピラー教習所](#)

Cat Technology

現場を支える確かなテクノロジー

Cat® Command

コンソールとステーション
—2つの選べるソリューション—



現場でも離れた場所でも、Commandがオペレータの安全と作業効率の向上を支援

最新の遠隔操作システム「Cat Command」により、危険物を取り扱う場面や安全確保が難しい状況でも、オペレータは機械に乗ることなく作業を行えます。また、Catグレードや、ペイロードなどの各種アシスト機能をそのまま活用できる点も大きな特長です。操作に慣れれば、オペレータは運転席にいたのと同じ感覚で高い効率と精度を保ちながら作業することが可能です。騒音や振動が大幅に低減されるため、オペレータの疲労軽減にもつながり、長時間の作業でも高いパフォーマンスを維持します。

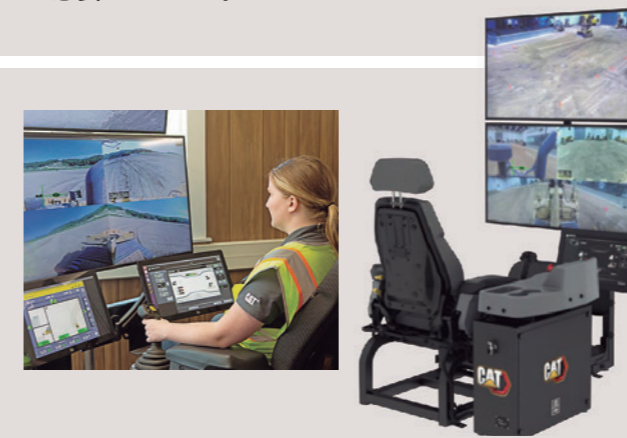
Cat Commandコンソール

作業現場にとどまらず、キャブの外から機械を直接目視で確認しながら操作ができる、持ち運び可能な軽量システムです。

- 短期間の使用や緊急時の対応に最適です。
- 現場の通信インフラ（ネットワーク環境）を必要としません。



※コンソールの仕様・機能は機械種類によって異なります



Cat Commandステーション

遠く離れた場所からでも、オペレータは屋内に設置された「仮想運転席」に座ってリモートで作業を行うことができます。

- 快適な作業環境を確保でき、オペレータの疲労軽減に役立ちます。
- 高画質の映像により、作業エリアを鮮明に視認できます。

Cat Commandが対応する主なオペレータ支援機能

- **油圧ショベル** Cat グレード 2D/3D、グレードアシスト、ペイロード、E-フェンス
- **ブルドーザ** Cat グレード 2D/3D、スロープアシスト、オートキャリー
- **ホイールローダ** Catペイロード、オートティグ、オートセットタイヤ

Cat Commandコンソールの対応機種

- 油圧ショベル ● ブルドーザ ● ホイールローダ
- スキッドステアおよびコンパクトトラックローダ

Cat Commandステーションの対応機種

- 油圧ショベル（13トンから95トンの次世代油圧ショベル）
- ブルドーザ ● ホイールローダ
- スキッドステアおよびコンパクトトラックローダ

※対応機種の詳細については、お近くの販売店へお問い合わせください。

Cat Commandの詳細についてはこちら▶





工事現場における夏の気象災害対策

「全国安全週間」を機に、夏季の現場の安全を確保しましょう！

現場での安全に対する意識を高めると同時に、急な悪天候や異常気象への備えを万全にしましょう。

近年はゲリラ豪雨や大型台風などが頻発しており、大雨の発生頻度は1980年頃と比較して、ここ10年で概ね2倍に増加しています*。異常気象は予測が難しく、作業員の安全確保や現場の設備・資材の損傷など、夏の工事現場での災害リスクが高まっています。そのため工事関係者は、気象情報の綿密なチェックや対応策の準備を一層強化する必要があります。7月1日から7日までは「全国安全週間」、6月はその準備期間と定められており、安全に対する意識をより高めて、急な暴風雨などの「想定外」を想定する絶好のタイミングです。気象の変化が重大事故を招く前に、現場で共有しておきたいポイントを整理しました。

※出典：気象庁「日本の気候変動 2025 一大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書」

① 気象情報を「見ているつもり」から「使って判断する」へ

天候判断は、経験や勘だけに頼るのではなく、客観的な情報をどのように活用し、判断するかが重要です。気象庁の防災情報やアプリを「誰が」「いつ」「どのタイミングで」確認するかを明確にし、気象情報の「現場での使い方」を事前に決めておきましょう。

- ・大雨・洪水・暴風警報が発令された場合の情報共有ルートを明確にしているか
- ・「様子を見る」のではなく、判断する基準を事前に共有できているか

③ 排水不良が引き起こす転倒・感電リスク

短時間の豪雨でも、現場では思わぬ危険が発生します。あらかじめ以下の確認とルール設定を行っておくことが、事故防止につながります。

- ・排水経路の確認をしているか
- ・電源・配線の位置を把握しているか
- ・雨天時に立ち入らないエリアを明確にしているか

② 大雨時・大雨後の建設機械操作の注意点

豪雨時は、機械自体の異常よりも、地盤の緩みや視界不良といった周辺環境の変化が事故につながります。平常時よりも慎重な行動と適切な判断が重要です。

- ・転倒・沈下リスクに備え、通常より低速での操作
- ・雨による視界不良を避けるため、誘導員との確実な合図確認
- ・「無理に作業を続けない」適切な判断



④ 「いつ止めるか」を決めておく——緊急退避の判断基準

気象災害で最も重要なのは、「いつ作業を中断し、退避するか」という判断です。次のような場面では、「誰の判断でどのように行動するか」を事前に決めて、共有することが重要です。

- ・大雨や暴風などの警報・特別警報が出た場合
- ・機械操作に支障が出始めたとき
- ・足元や周囲に「いつもと違う」変化を感じたとき

7月の全国安全週間を“行動確認の機会”に

大切なのは、日常の中で無理のない判断ができるかどうかです。「急な天候変化時の声掛け」「情報共有のスピード」「作業中断や退避をためらわない雰囲気づくり」などについても改めて確認しましょう。突然の豪雨や台風を防ぐことはできませんが、備えること、そして判断することはできます。気象災害を「想定外」にしないことが、夏の現場を無事故で乗り切る力になります。

今日のワンポイント

労働安全衛生規則などには、悪天候時の作業禁止などの規制があります。規制対象となる「悪天候」の基準には、例えば以下のようなものがあります。

※「悪天候」の種類や規制の内容は、作業や設備によって異なります。

風の目安

- 水平：風速10m以上
- 約45°：風速5m以上
- 約30°：風速3~4m以上

10分間の平均風速 毎秒10m以上
歩くことは困難で自転車では前に進むのが精一杯。

雨の目安

1回の降雨量 50mm以上

傘を差しても濡れる。
道路に水がたまり川のような状態。

TOPICS

CONEXPO-CON/AGG 2026に出展

※「CONEXPO-CON/AGG」は、3年に1度開催される世界三大建設機械展示会の一つ。

キャタピラーは、米国ラスベガスで開催されたCONEXPO-CON/AGG 2026に出展し、生産性の向上や安全性の強化、人手不足といった建設業界の重要課題に対応する先進技術、サービスソリューション、新製品を紹介しました。

最新テクノロジーを展示

Cat AI Assistant™

Cat AI Assistant™は、CatマシンやVisionLink®、Parts.Cat.Comなどキャタピラーのデジタルツールをお客様がよりスムーズに活用するための新たなAIソリューションとして紹介されました。

Cat AI Assistant™は、複雑な操作を軽減し、タイムリーな回答や最適な提案をしてくれることで、オフィスから現場まで、チームがより迅速かつスマートな意思決定を行うのに役立ちます。

Cat® CS12

会場では、建設業界の人手不足や安全性、生産性向上の課題解決策として、キャタピラー初の自律型振動ローラー「Cat CS12」が紹介されました。本機はオペレータ不要で締め固め作業を行うことができ、ライブデモンストレーションでは建設機械の自律化が実用段階に近いことを示しました。



(上) 遠隔操作で稼働するマシン
(右) Cat Commandステーションでマシンを遠隔で操作
(左) キャタピラー初の自律型振動ローラーCat CS12

「グローバル オペレータ チャレンジ」と「グローバル ディーラ テクニシャン チャレンジ」の受賞者を表彰



オペレータスタジアムで開催された、「グローバル オペレータ チャレンジ決勝戦」

世界トップクラスのオペレータを決定する「グローバル オペレータ チャレンジ」の最終大会が開催され、世界各地から選出された9名のファイナリストが決勝戦に出場しました。日本からは田中産業株式会社のみやじまのりお社の宮嶋学生様が出場され、ハイレベルな技術を競い合いました。

この大会終了後には、ディーラ技術者の重要な役割を称える目的で初開催となった「グローバル ディーラ テクニシャン チャレンジ」の表彰式も実施され、両チャレンジの優勝者および入賞者が表彰されました。

ご愛読者プレゼント

「CAT CLUB No.132」のご意見、ご感想をお寄せください。抽選でCatグッズをプレゼントいたします。

コンパクトトラックローダー
Cat 259D3
1/50スケールモデル

3名様



保護手袋

※応募の際、MかLサイズの記載をお願いします。

5名様



【応募要領】 必要事項を記載いただき、下記メールアドレス宛にご応募ください。

■お名前 ■ご住所 ■連絡先のお電話番号 ■会社名

■ご希望のプレゼント ■「CAT CLUB」へのご意見・ご感想

【応募締切】2026年9月11日(金)

【応募先アドレス】cat-club-japan@cat.com



●ご当選者には、セールスマンが賞品を直接お届けいたします。お届けの賞品が見本と異なる場合がございます。当選結果に関するお問い合わせ等にはお答えできませんのであらかじめご了承ください。ご提供いただきました個人情報はキャタピラー・ジャパンの個人情報保護方針に基づき、今後の商品開発・販売促進などに利用させていただきます。当社の個人情報・保護方針は、当社ホームページからご覧いただけます。
<https://www.caterpillar.com/ja/legal-notices/dataprivacy.html>

キャタピラー・ジャパン LINE公式アカウント
LINEスタンプ販売中!

スタンプ詳細はこちら >>>



友だち募集中
[ID] @caterpillar

農作業に

小規模の農地造成、水路開削や農道整備の効率化をバックアップします。



道路工事に

歩道や車線内などの限られたスペースでも効率的な作業が可能です。



設備工事に

狭い敷地内で掘削から吊り作業にと様々な作業に対応します。



解体作業に

木造家屋やビル内部など大型機の入れない場所での解体作業に最適です。



「小型車両系建設機械運転技能特別教育」で運転できる機体質量3トン未満の

Cat® 次世代ミニ油圧ショベル 301.7 CR / 302 CR / 303 CR / 303.5 CR

製品情報は
こちらから



国土交通省
第3次基準値
排出ガス対策型



国土交通省
超低騒音型
建設機械

キャタピラー

http://www.cat.com/ja_JP/

CAT CLUB 編集部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL.045-682-3424

CAT CLUB メールアドレス

cat-club-japan@cat.com

CAT CLUB
デジタル版も
好評配信中!



©2026 Caterpillar. All Rights Reserved. CAT, CATERPILLAR, LET'S DO THE WORK. それらの各ロゴ、"Caterpillar Corporate Yellow"、"Power Edge"、およびCat "Modern Hex" のトレードドレスは、本書に記載されている企業および製品の識別情報と同様に、Caterpillar社の商標であり、許可なく使用することはできません。記述の内容と仕様は、予告なしに変更されることがあります。写真には、海外仕様の製品およびオプション装備品が含まれていることがあり、国内仕様と異なる場合があります。

用紙にはFSC®認証材、再生資源、およびその他の管理原材料から作られたFSC®認証用紙を使用しています。

